「炉端の会」６月のコラム

ホトトギスが飛び回っている。この良く通る声で、毎年私は初夏を実感する。

５月14日、夏のような陽射しの中、お隣のばら苑で聞いたのが私の初聞き。ホトトギス(以下 ㋭)が鳴くと時々ウグイス(以下 ㋒)も鳴く。ご存じのように㋭の托卵相手は㋒だから「隠れて！見つかるよ！」と心配になる。

生かじりの知識であるが、㋭ は㋒の巣に卵を産み付け、先に孵化した㋭の幼鳥が㋒の卵を背中で押して巣外に捨てるという。そもそも親鳥は、種が違っても幼鳥の赤く広げられた口を見ると給餌する本能があるとか。㋒はそうとは知らず懸命に自分より大きい㋭を育てるという訳だ。㋭は子育てしないから楽してるなぁと思いきや、恒温性が低くうまく卵を温められないという説もある。

もしかしたら、㋭が鳴いた後㋒が鳴くのは別の理由があるかも？㋒が托卵に来た㋭を攻撃するという調査もある。㋒だって手をこまねてばかりではないだろう。生物は進化する。ところで30年位前、生田緑地では㋒は留鳥でなかった。ここで繁殖するようになったのは巣を造る場所＝藪が増えたからだとか。渡り鳥の㋭もそれをちゃんと知っている訳だ。自然環境は流動的で、生物は生死をかけて暮らしている。透明人間になって藪の中の巣を見たい、必死で飛び回る㋭と専守の㋒に本音を聞いてみたい・・・。

古民家で火焚きをしたり周囲の草むしりをしながら、㋭と㋒の声を聞ける。呑気で鳥には申し訳ないが、至福のひとときだ。

日曜班　木下